

# 令和 6 年能登半島地震について ～新潟市防災会議～

新潟地方気象台長  
西尾 利一

# 地震・津波の概要

令和6年1月1日  
地震火山部

令和6年1月1日16時10分頃の石川県能登地方の地震について（第2報）

気象庁では、石川県能登地方で発生している一連の地震活動について、その名称を「令和6年能登半島地震」と決めました。

石川県能登地方では、令和2年（2020年）12月から地震活動が継続しており、令和6年1月1日16時10分頃の石川県能登地方の地震により、最大震度7を観測するなど能登半島を中心に強い揺れを観測しました。気象庁は、今回の地震及び令和2年12月以降の一連の地震活動について、陸域でマグニチュード7.0以上かつ最大震度5強以上の基準を満たしたことから、名称を「令和6年能登半島地震」と決めました。

なお、名称を定める基準及び付け方等は、気象庁ホームページでご覧いただけます。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/meishou/meishou.html>

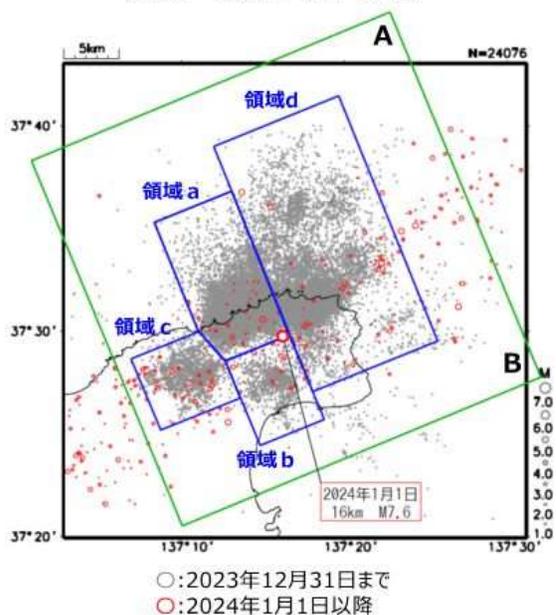
○ 石川県能登地方では、2018年頃から地震回数が増加傾向、2020年12月から地震活動が活発化。2023年5月には最大震度6強の地震が発生し、地震活動が活発な状態が継続。

「令和6年能登半島地震」

(2023年12月31日までの地震活動域と、M7.6発生前後の地震活動の位置関係)

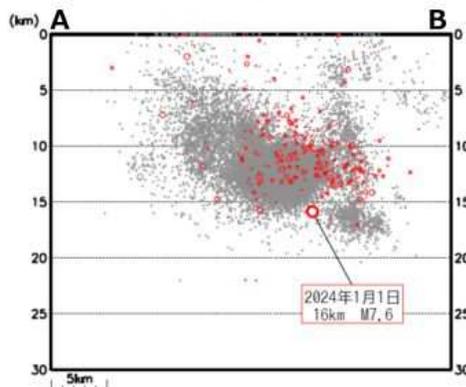
震央分布図

(2020年12月1日～2024年1月2日12時00分、深さ0～30km、M $\geq$ 1.0)

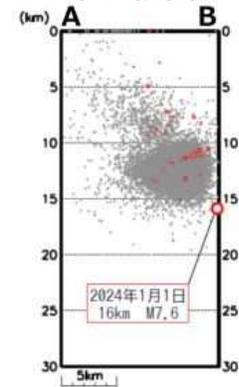


※2024年1月1日以降の震源データは、M7.6（暫定値）を除いて速報値（自動震源を含む）を用いた。

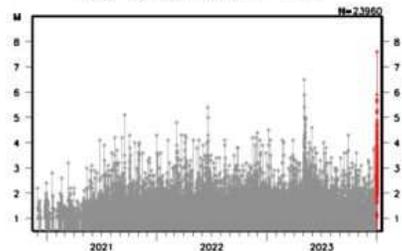
緑色矩形内の断面図 (A-B投影)



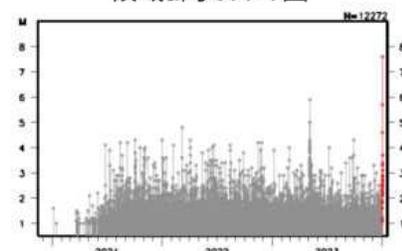
領域a内の断面図 (A-B投影)



緑色矩形内のM-T図

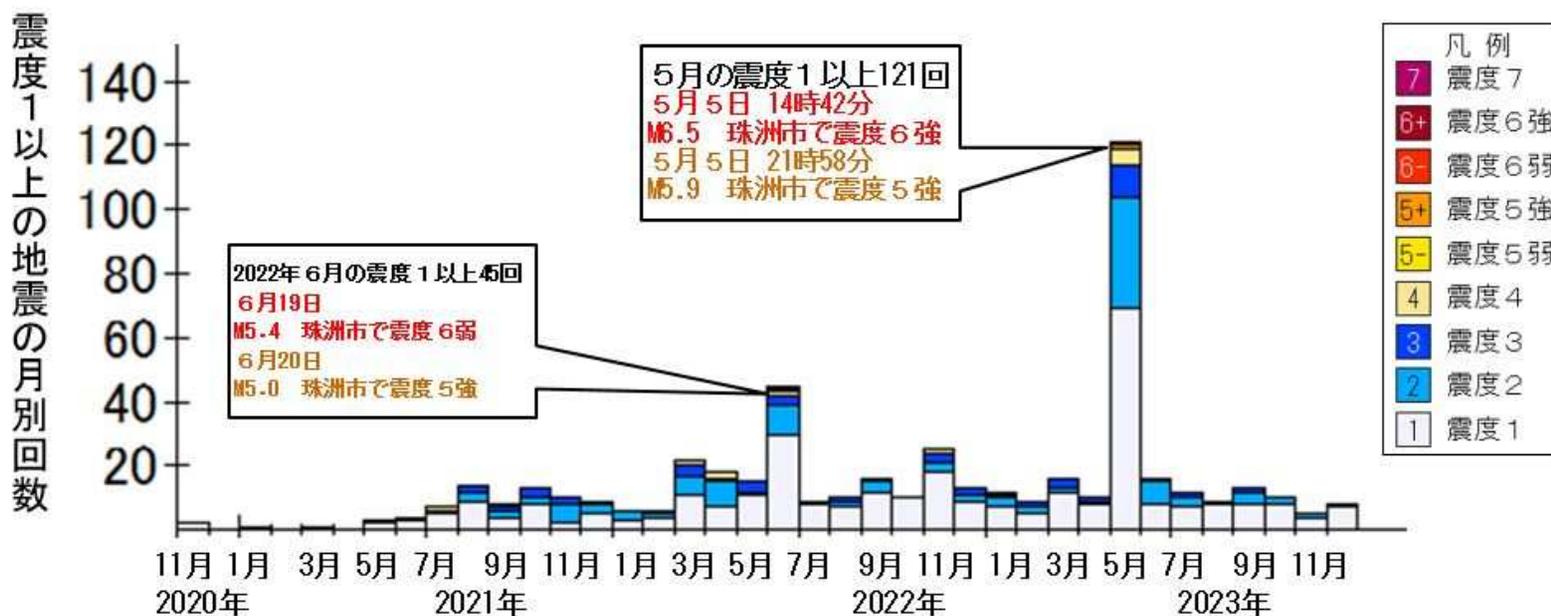


領域a内のM-T図



○2020年12月以降、2024年1月1日16時まで、震度1以上を観測した地震が506回  
 (震度6強:1回、震度6弱:1回、震度5強:2回、震度5弱:1回、震度4:13回、  
 震度3:49回、震度2:119回、震度1:320回)発生。

令和6年能登半島地震の地震活動による月別・震度別震度回数(令和5年12月31日まで)



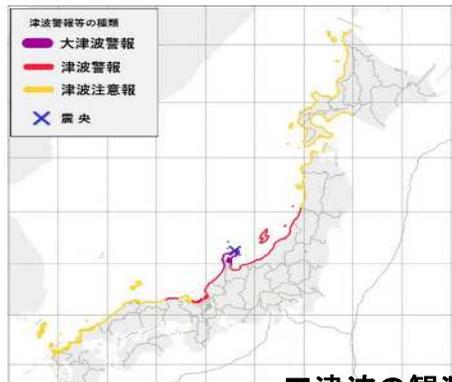
令和6年能登半島地震の地震活動による月別・震度別震度回数グラフ  
 (2020年11月1日～2023年12月31日まで)

○2024年1月1日16時10分にマグニチュード7.6、深さ16kmの地震が発生し、石川県輪島市、志賀町で震度7を観測したほか、北海道から九州地方にかけて震度6強～1を観測。

○石川県能登に対して大津波警報を、山形県から兵庫県北部を中心に津波警報を発表し、警戒を呼びかけ。石川県の金沢で80cm、山形県の酒田で0.8mなど各地で津波を観測。その後、発表していた津波注意報は、2日10時00分に全て解除。

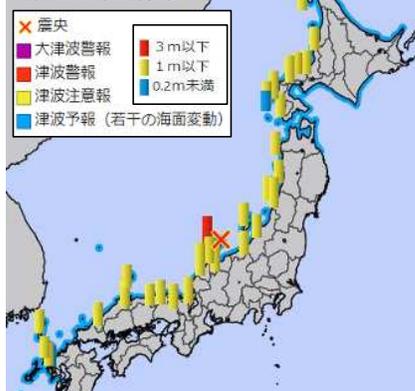
## ■津波警報等発表状況

1月1日16時22分発表

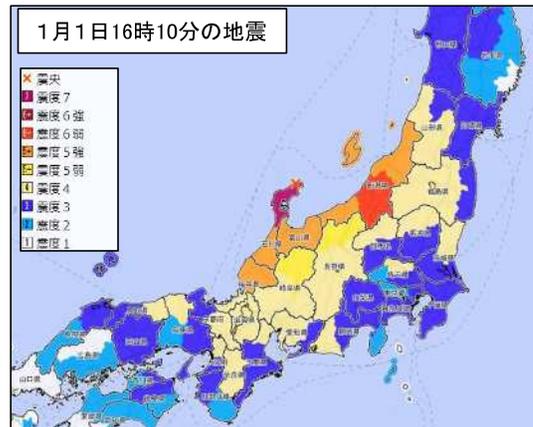


## ■津波の観測状況

1月2日10時03分発表

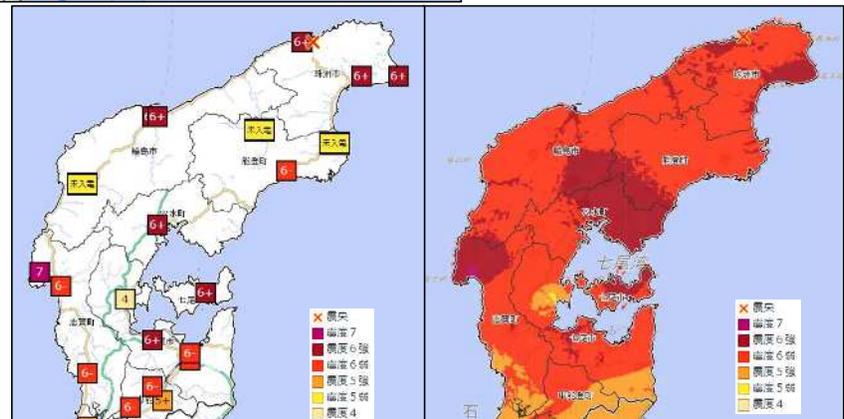


## ■震度分布図・推計震度分布図



報道発表:「令和6年能登半島地震」における震度について (令和6年1月25日)

- 輪島市門前町走出 \* 7 (6.5)
  - 能登町松波 \* 6強 (6.2)
  - 能登町柳田 \* 6弱 (5.8)
- 情報発表時は震度を入力していなかった観測点 (未入電)

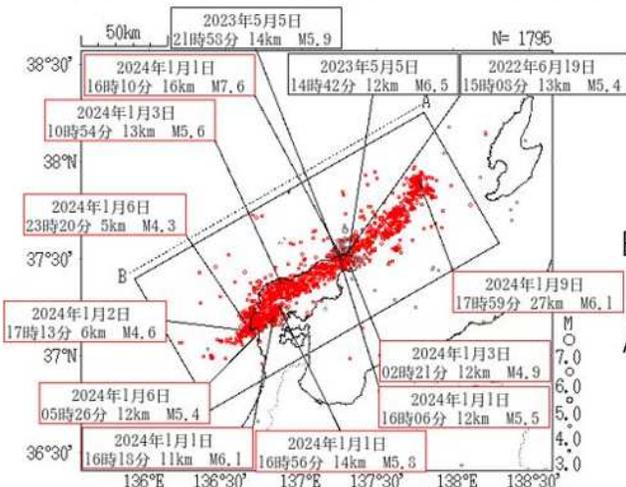


- 2024年1月1日16時10分のマグニチュード7.6(最大震度7)の地震以降、地震の発生数は増減を繰り返しながら大局的には緩やかに減少。ただし、1月1日に発生したM7.6の地震前に比べて活発な状態が継続。
- 地震活動域は、能登半島及びその北東側の海域を中心とする北東-南西に延びる150km程度の範囲。
- 3月11日に地震調査委員会が開催され、この地震について詳細な検討がなされた結果、「これまでの地震活動及び地殻変動の状況を踏まえると、2020年12月以降の一連の地震活動は当分続くと考えられる。特に今回の活動域及びその周辺では、今後強い揺れや津波を伴う地震発生の可能性がある。」とも評価。

## 震央分布図

(2020年12月1日～2024年3月18日24時00分、  
深さ0～30km、M3.0以上)

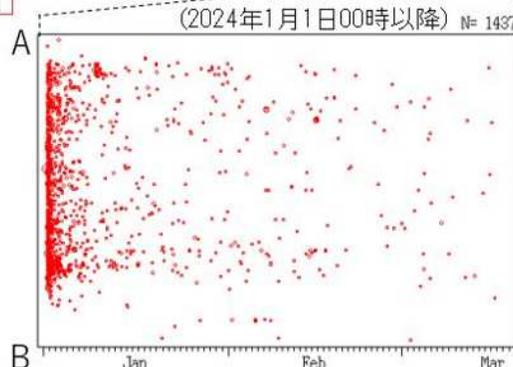
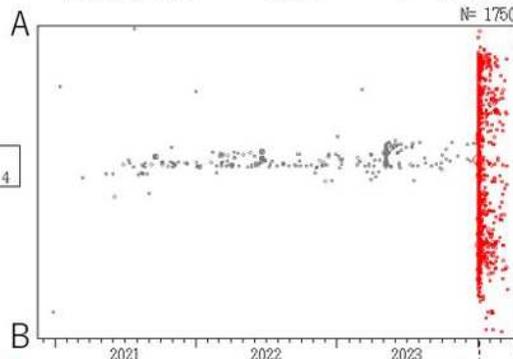
2024年1月1日以降の地震を赤く表示  
吹き出しは、最大震度5強以上の地震又はM6.0以上の地震



丸の大きさはマグニチュードの大きさを表す。  
表示している震源のうち、3月18日00時以降のものは速報値。

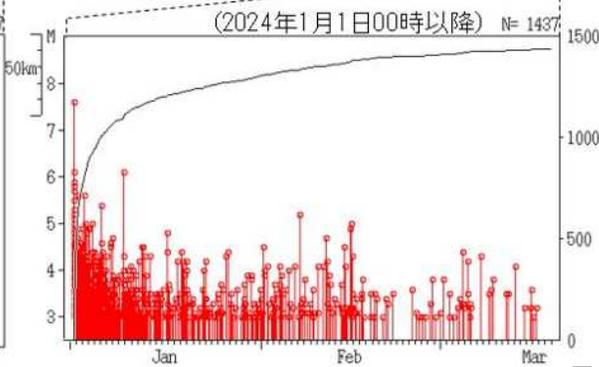
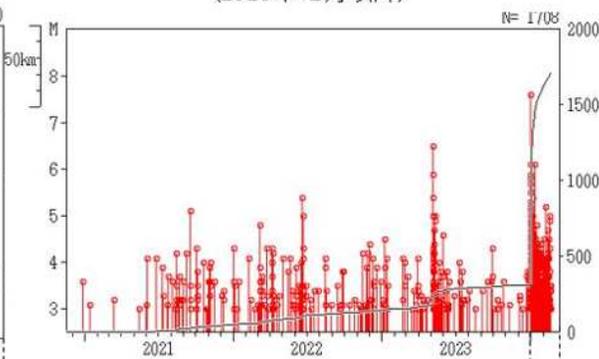
## 時空間分布図

(矩形領域内：A-B投影、2020年12月以降)

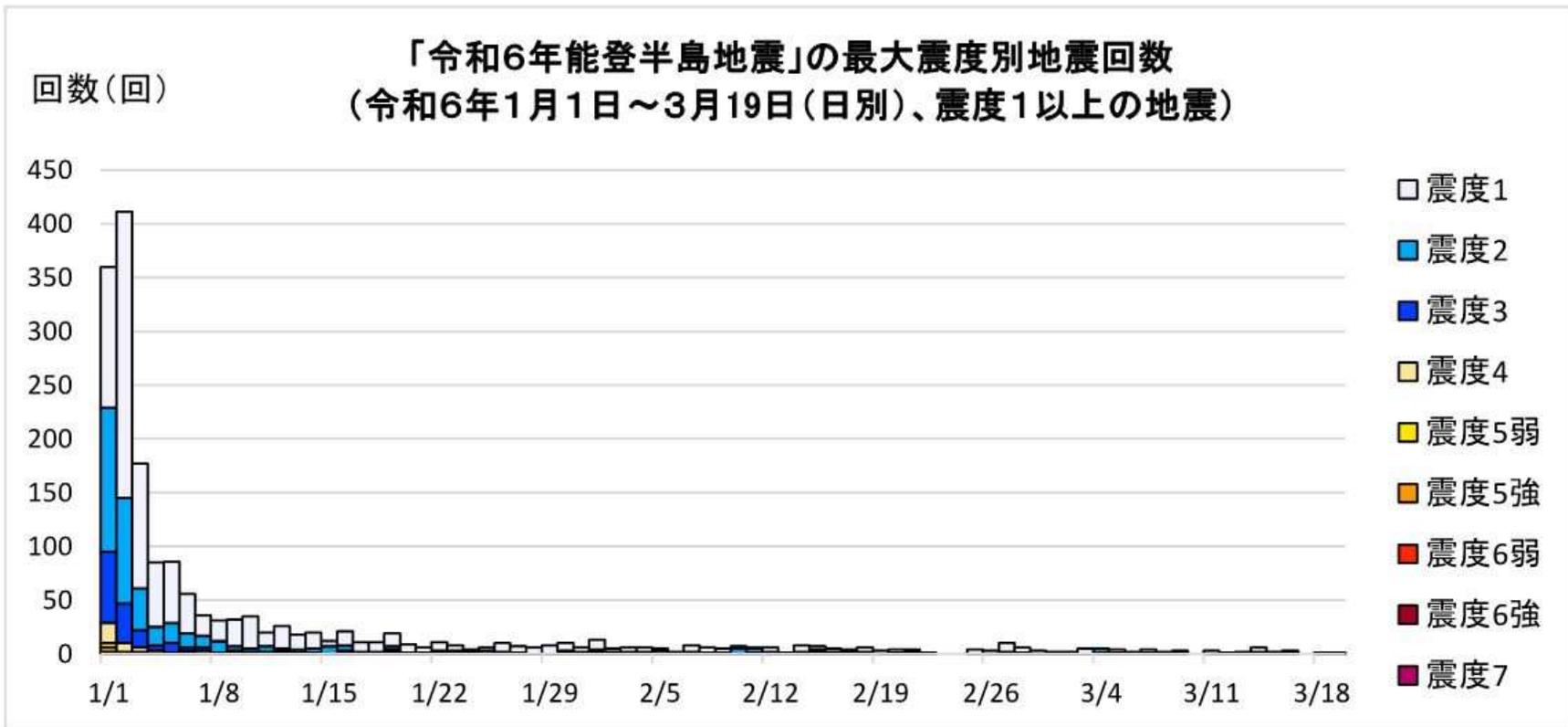


## 矩形領域内の地震活動経過図

(2020年12月以降)



○2024年1月1日16時以降、3月19日08時現在で震度1以上を観測した地震が1750回発生(震度7:1回 震度6弱:2回 震度5強:8回 震度5弱:7回 震度4:48回 震度3:174回 震度2:441回 震度1:1069回)。

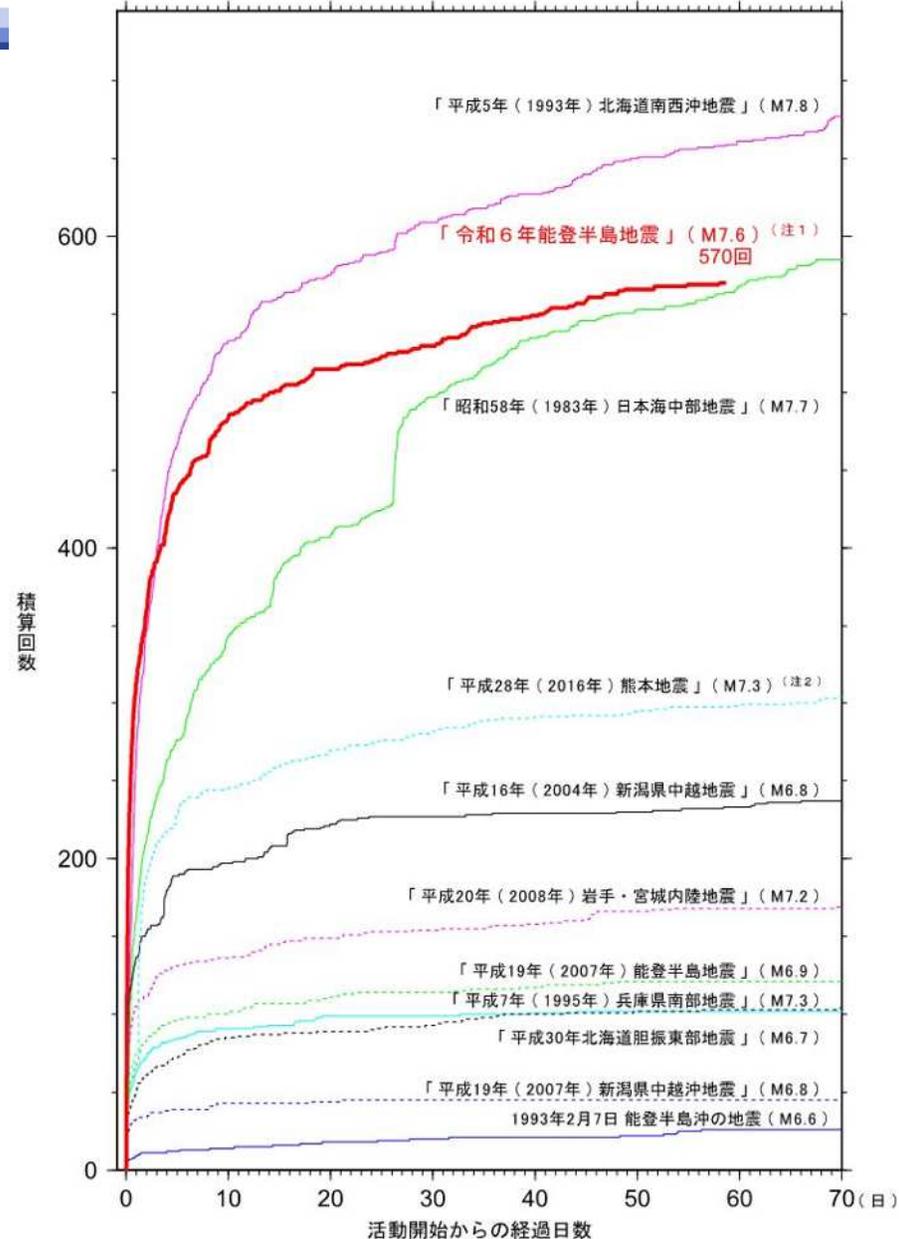


# 「令和6年能登半島地震」について

1月1日に発生したM7.6（最大震度7）の地震以降、地震の発生数は増減を繰り返しながら大局的には緩やかに減少。

ただし、1月1日に発生したM7.6の地震前に比べて活発な状態が継続。

ただし、平成16年（2004年）新潟県中越地震や平成28年（2016年）熊本地震などと比較しても、地震回数は多く推移。



※この資料は速報値であり、後日の調査で変更することがある。  
 ※今回の地震のマグニチュードについては、これまでの最大を示している。  
 (注1) 2024年1月1日16時10分 (M7.6) の地震を起点にカウントしている。  
 (注2) 2016年4月14日21時26分 (M6.5) の地震を起点にカウントしている。

「令和6年能登半島地震」について(第20報)

ー引き続き活発な地震活動に注意ー

→<https://www.jma.go.jp/jma/press/2402/29a/202402291400.html>

# 「令和6年能登半島地震」について

陸のプレート内で発生した過去の大地震との活動比較(6か月間)

陸のプレート内で発生した大地震の事例

平成16年(2004年)新潟県中越地震(M6.8)

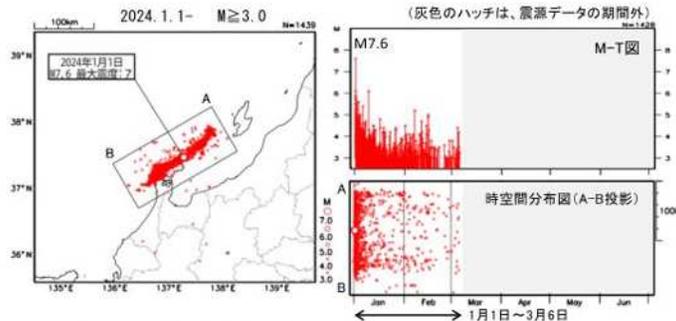
平成28年(2016年)熊本地震(M7.3)

平成30年北海道胆振東部地震(M6.7)

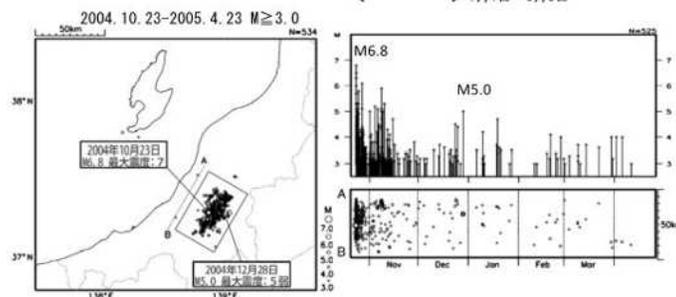
最大の地震発生後数か月経って、地震の発生数が緩やかに減少している中で大きな規模の地震が発生したことがある。

海底で規模の大きな地震が発生した場合、津波にも注意が必要。

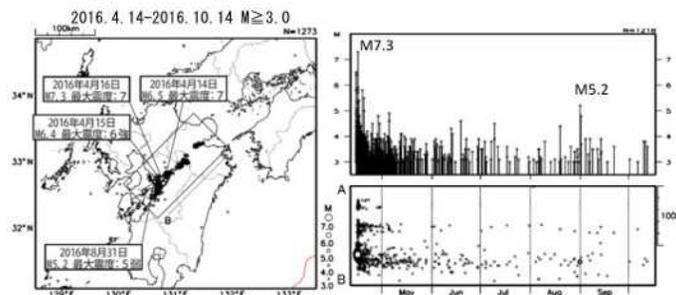
令和6年能登半島地震  
(M7.6, 最大震度7)



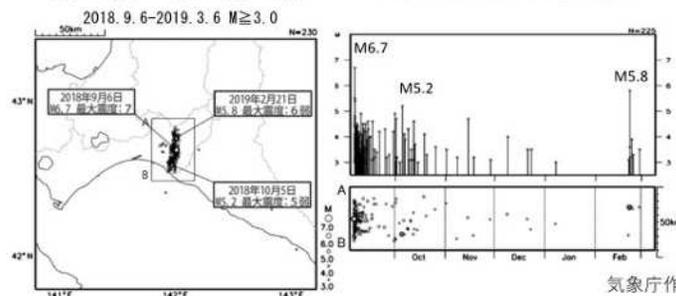
平成16年(2004年)  
新潟県中越地震  
(M6.8, 最大震度7)



平成28年(2016年)  
熊本地震  
(M6.5, 最大震度7,  
M7.3, 最大震度7)



平成30年  
北海道胆振東部地震  
(M6.7, 最大震度7)

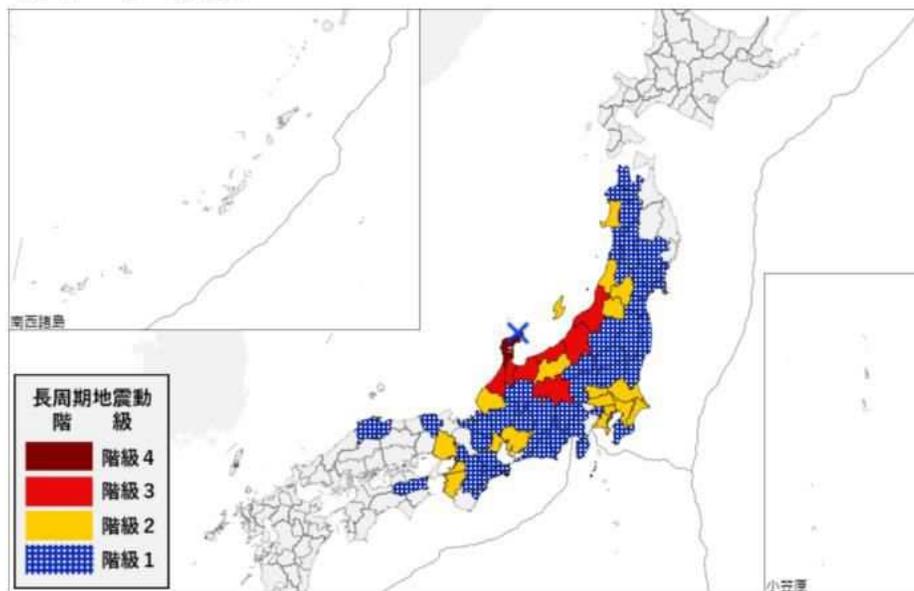


令和6年1月1日16時10分頃の石川県能登地方の地震について

# 長周期地震動階級の観測状況

階級	地域名称						
階級4	石川県能登						
階級3	石川県加賀	新潟県上越	新潟県中越	新潟県下越	富山県東部	富山県西部	長野県中部

1月1日16時23分発表



**階級4**

立っていることができない

**階級3**

立っていることが困難

**階級2**

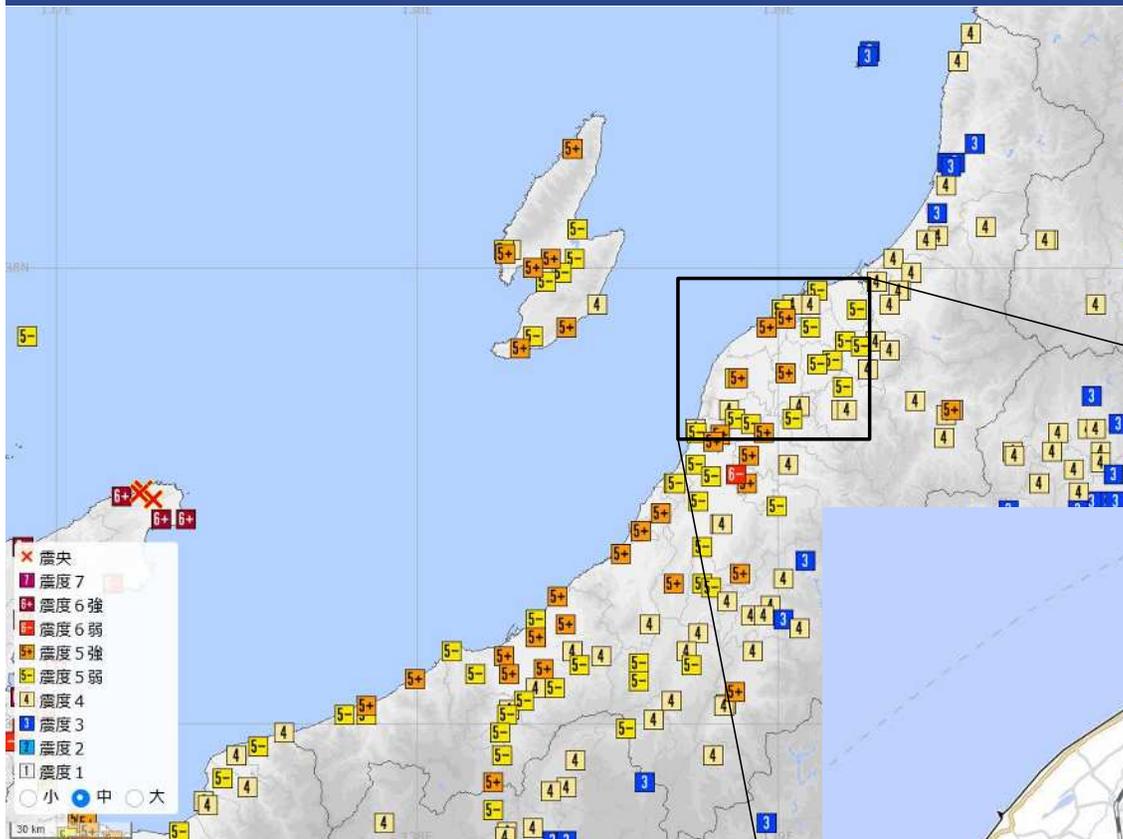
物につかまりたいと感じる

**階級1**

ほとんどの人が揺れを感じる

最新の情報は、以下のページでご確認ください。  
 長周期地震動に関する観測情報：<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=ltpgm>

# 新潟県内での 震度と津波の観測の概要

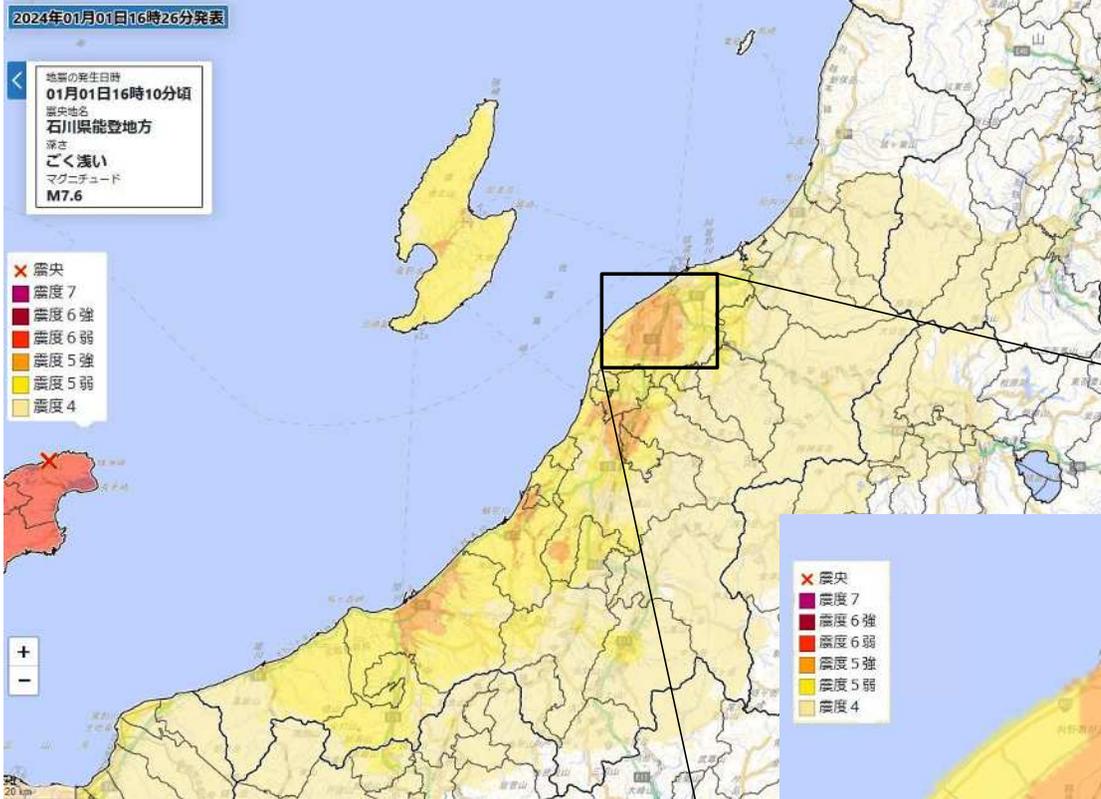


新潟市内の震度5強の観測点  
新潟市中央区美咲町 (5.1)  
新潟南区白根 \* (5.2)  
新潟西区寺尾東 \* (5.4)  
新潟西蒲区役所 (5.0)



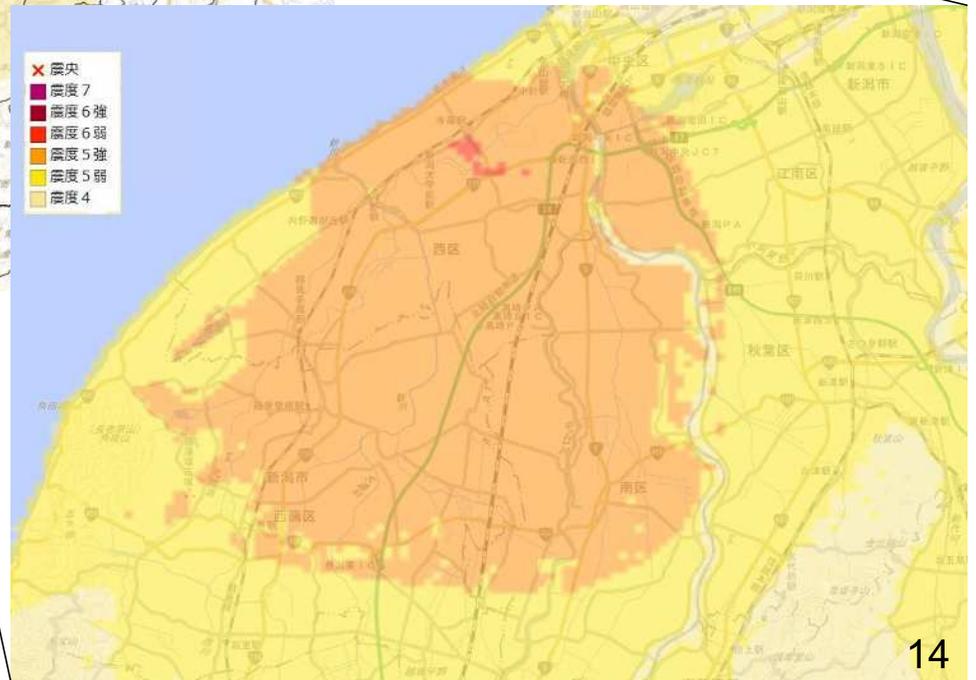
県内では長岡市で震度6弱を観測。  
広い範囲(31か所)で震度5強を観測。  
県内の観測点ではすべての観測点で震度3以上を観測した。

# 1月1日16時10分に発生したM7.6の地震による新潟県付近の推計震度分布図



新潟市内については、震度5強を観測した中央区、西区、西蒲区、南区の他、江南区や秋葉区でも震度5強を推計。特に西区寺尾付近では震度6弱も推計されている。

震度5強以上を観測した地域を含め、県内広い範囲で震度5弱以上が推計されている。



「令和6年能登半島地震」  
(2024年1月1日16時10分 石川県能登地方の地震Mj7.6に伴う津波観測状況)

津波観測値(暫定値) (新潟県付近を抜粋)

都道府県	観測点名	所属	第一波		最大波		高さ (cm)
			到達時刻		発現時刻		
秋田県	秋田	港湾局	1日	17:24	1日	23:35	36
山形県	酒田*1	気象庁	1日	17:13	1日	19:08	0.8m
	飛島	国土地理院	1日	16:--	1日	17:52	35
新潟県	新潟	港湾局	1日	16:54	2日	1:36	31
	柏崎市鯨波	国土地理院	1日	16:30	1日	16:36	37
	粟島	海上保安庁	1日	--:--	1日	19:07	32
	佐渡市鷺崎	気象庁	1日	16:32	1日	19:21	33
富山県	富山	気象庁	1日	16:13	1日	16:35	79
石川県	七尾港	港湾局	1日	16:37	1日	18:59	54
	金沢	港湾局	1日	16:52	1日	19:09	80
福井県	敦賀港	港湾局	1日	17:34	1日	20:27	57

気象庁HP「令和6年1月の地震活動及び火山活動について」<https://www.jma.go.jp/jma/press/2402/08a/2401kanto-chubu.pdf>から引用

津波観測値(暫定)(抜粋) - は値が決定できないことを示す。

※観測値は後日の精査により変更される場合がある。

※所属機関の観測波形データをもとに気象庁が検出した値。

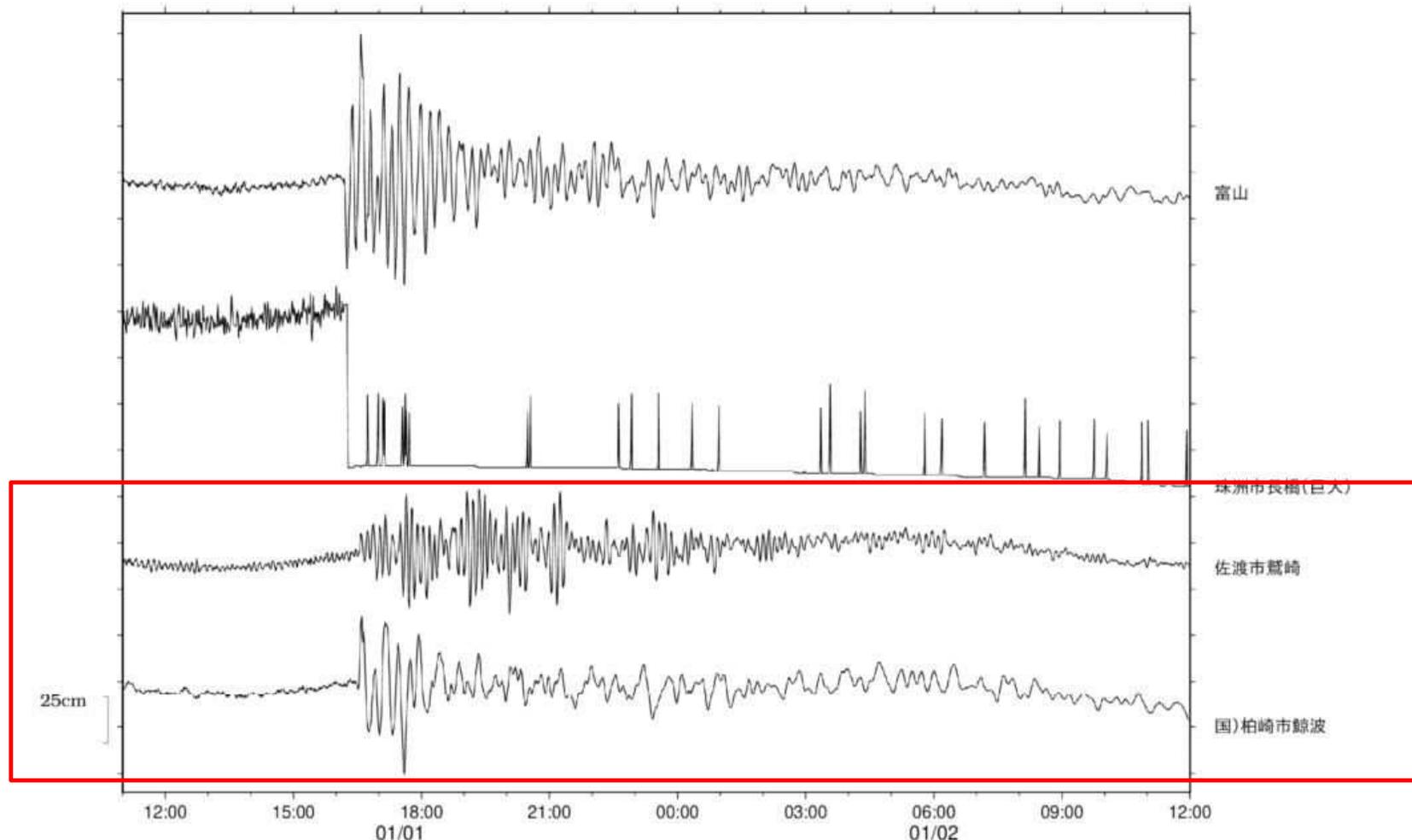
\*1 は巨大津波観測計により観測されたことを示す(観測単位は0.1m)。

(国)は国土地理院、(港)は国土交通省港湾局、(海)は海上保安庁、記載のないものは気象庁

確定値: 各年の潮汐観測データ <https://www.data.jma.go.jp/kaiyou/db/tide/gaikyo/nenindex.php>

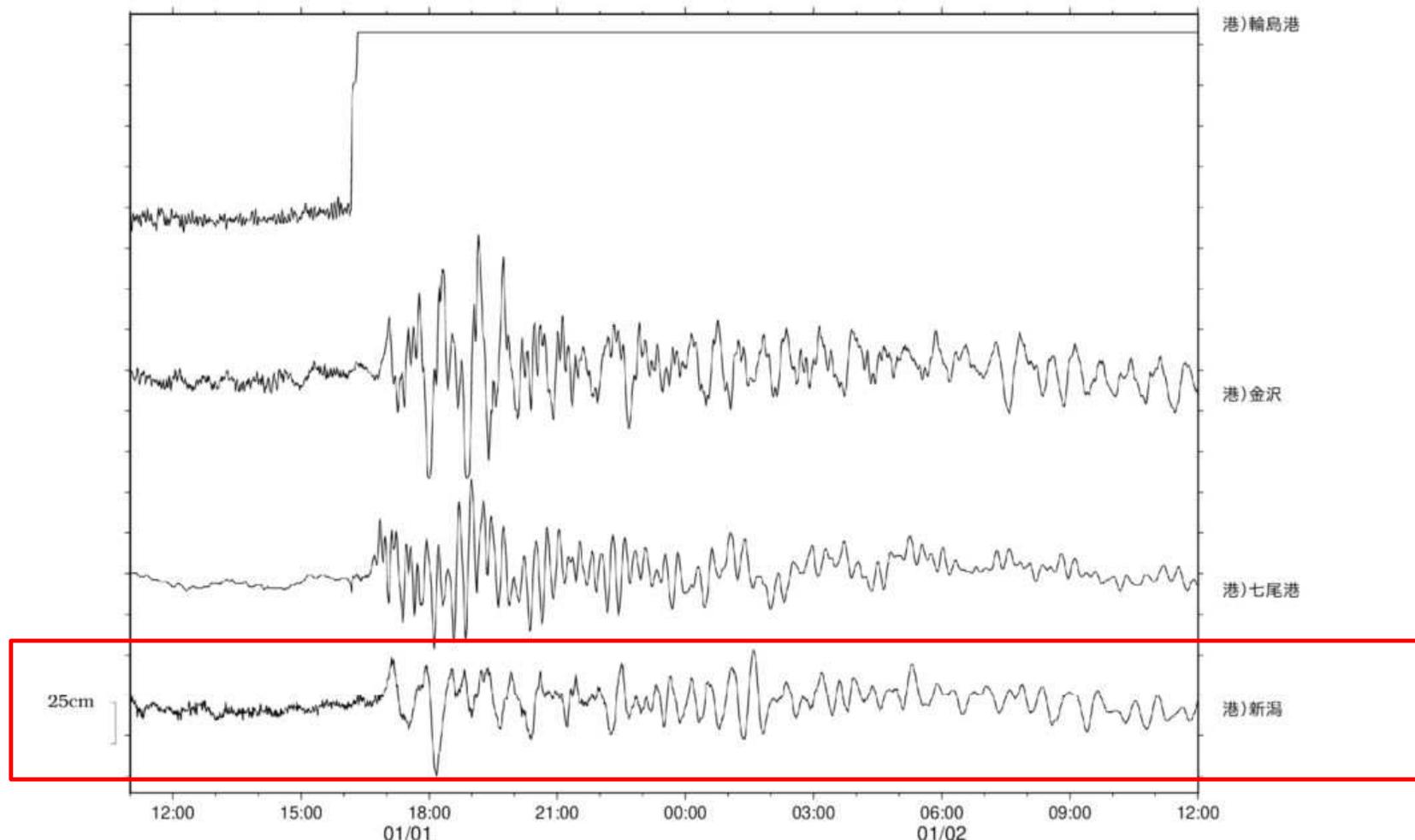
暫定値: 地震・火山月報(防災編) <https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/gaikyo/index.html#monthly>

「令和6年能登半島地震」  
(2024年1月1日16時10分 石川県能登地方の地震Mj7.6に伴う津波観測状況)



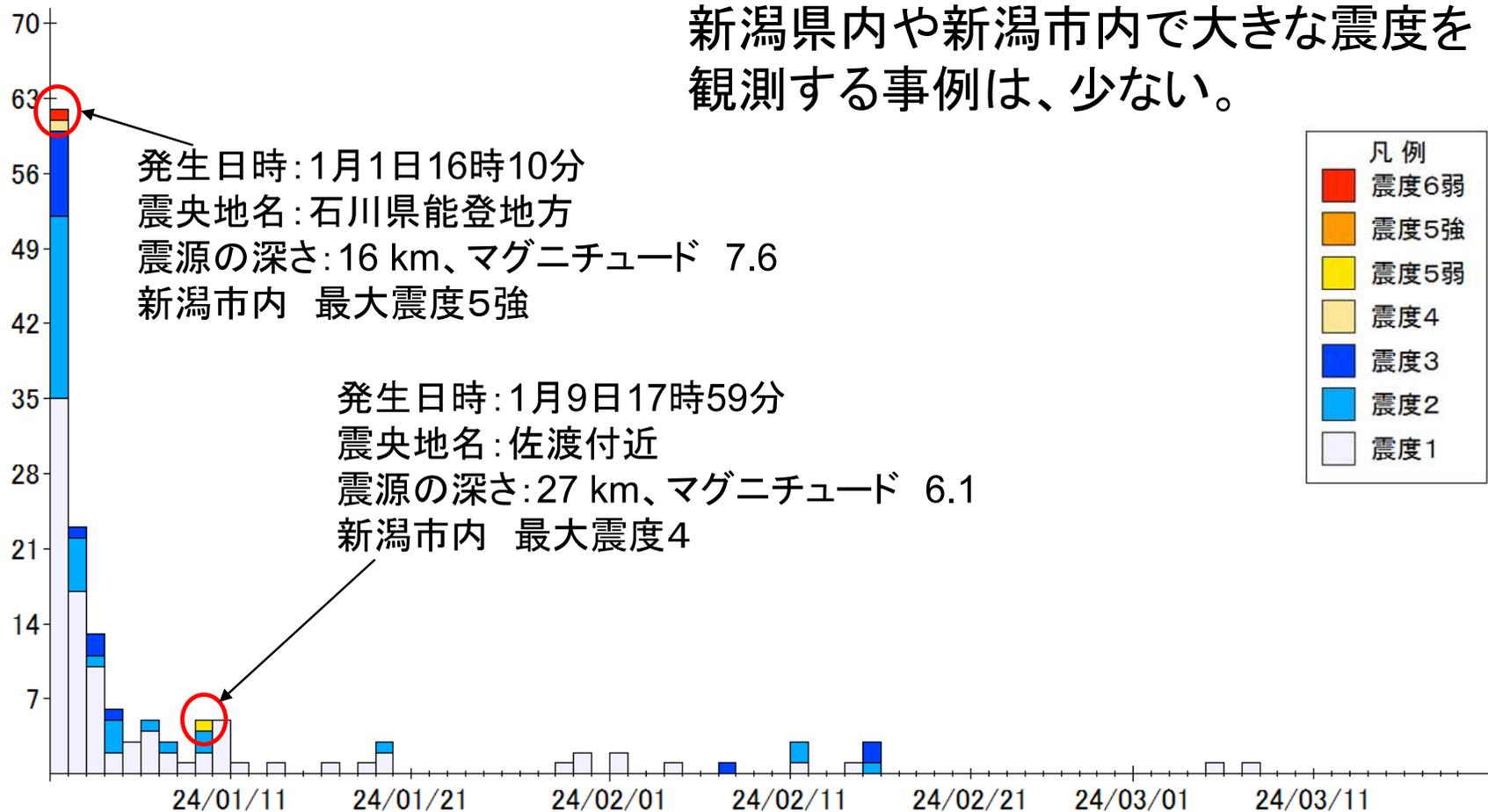
港)は国土交通省港湾局、国)は国土地理院、県)は兵庫県豊岡土木事務所、記載のないものは気象庁の観測点を示す。  
観測点名称の末尾に(巨大)の記載のあるものは巨大津波観測計を示す。

「令和6年能登半島地震」  
(2024年1月1日16時10分 石川県能登地方の地震Mj7.6に伴う津波観測状況)



港)は国土交通省港湾局、(国)は国土地理院、(県)は兵庫県豊岡土木事務所、記載のないものは気象庁の観測点を示す。  
観測点名称の末尾に(巨大)の記載のあるものは巨大津波観測計を示す。

大きな震度を観測するような地震は、ほとんどが石川県能登地方で発生。新潟県内や新潟市内で大きな震度を観測する事例は、少ない。



## ○令和6年能登半島地震の概要

- ・石川県能登地方では、2018年頃から地震回数が増加傾向、2020年12月から地震活動が活発になり、2023年5月には最大震度6強の地震が発生し、地震活動が活発な中で、2024年1月1日16時10分にマグニチュード7.6の地震が発生。
- ・新潟県内では最大震度6弱、新潟市内では最大震度5強を観測（推計震度分布図では新潟市西区寺尾付近では震度6弱も推計されている）。
- ・石川県能登に大津波警報を、新潟市が属する新潟県上中下越を含む山形県から兵庫県北部を中心に津波警報を発表。
- ・石川県の金沢で80cm、山形県の酒田で0.8mなど各地で津波を観測。新潟では、31cmの津波を観測。現地調査の結果、新潟県上越市船見公園で5.8m(遡上高)などの津波による痕跡を確認。
- ・地震活動域は、能登半島の北東部から、能登半島及びその北東側の海域を中心とする北東-南西に延びる150km程度の範囲に拡大。地震活動も活発。
- ・ただし、大きな震度を観測するような地震は、ほとんどが石川県能登地方で発生。新潟県内や新潟市内で大きな震度を観測する事例は、少ない。

### ○今後の対応について

- ・1月1日に発生したM7.6(最大震度7)の地震以降、地震の発生数は増減を繰り返しながら大局的には緩やかに減少しているが、1月1日に発生したM7.6の地震前に比べて活発な状態が継続。
- ・平成16年(2004年)新潟県中越地震や平成28年(2016年)熊本地震などと比較しても、地震回数は多く推移。
- ・2020年12月以降の一連の地震活動は当分の間続くと考えられる。
- ・過去の事例から、最大の地震発生後数か月経って、地震の発生数が緩やかに減少している中で大きな規模の地震が発生したことがある。

以上を踏まえると、

- ・能登半島地震の活動域で、大きな規模の地震が発生すると、新潟市内でも大きな震度になる可能性があるため、地震への備えが必要。
- ・海底で規模の大きな地震が発生した場合、津波にも注意が必要。